

2024年 しぶちー活動報告書

自 2024年4月1日 至 2025年3月31日

1. 事業の目的

置かれている環境や生まれ持った特性から生きづらさを感じている子どもたちに、喜びを追求する活動や安心できる環境を提供し、子どもたちの心を見守り応援し続ける居場所となること。かつ、当団体と離れた後も、いつでも頼り帰って来られるような心の拠り所となる居場所であり続けること。

2. 実施した4つの活動の概要

以下4つの中から、参加する活動を選ぶことができる事業形態となっている。

2024年度は『子どもの未来応援基金』と『参加費』を資金源に活動を実施した。

① 憇い

内 容：不登校の小中学生が朝から自由に過ごせるフリースペース活動。講師を招いてのワークショップも定期的に開催している。

対象者：学校を休みがち、または不登校の状態にある小中学生

日 時：月・水・金曜日の9時半～14時（祝日・お盆・年末年始を除く）

※ 2024年10月より、実施時間を9時～13時半から9時半～14時に変更

場 所：高津宮いやさかの家（貸し部屋）

料 金：小学1～4年生：600円 小学5年生・6年生・中学生：1,000円

※ 2024年10月より、小学5年生以上の料金を600円から1,000円に変更

② ドキドキつくり隊

内 容：不登校の小中学生の家に支援者が訪問し、ゲームやプログラミングや工作など、子どもが好きな遊びと一緒に楽しむ訪問活動

対象者：引きこもりや不登校の状態にあり、居場所に赴くことが困難な小中学生

日 時：週1回・1時間／一人当たり 曜日・開始時間は応相談

場 所：参加者の自宅

料 金：1500円／1回（交通費込み）

③ わくわく探検隊

内 容：何らかの生きづらさを抱える小中高生と、自然豊かな場所や楽しい体験ができる場所へハイキング行く体験活動

対象者：不登校・敏感すぎる気質・友だちづくりが苦手・シングルや貧困家庭・ヤングケアラーなど様々な生きづらさを抱えている小中高生

日 時：月1～2回（基本日曜日）10時～16時位
場 所：大阪市より電車で行ける自然豊かな場所や体験施設等
料 金：無料（年間保険料・交通費・施設入館料は参加者負担^{※1}）

^{※1} 貧困家庭の児童生徒は負担無し

④ イベント

内 容：キャンプやクリスマス会、企業や他団体の招待や協力によって実施する、
子ども達に特別な体験を提供する活動
対象者：しぶちーの活動に参加している、またはしぶちーの活動の参加を希望して
いる小中高生（親子イベントの場合は保護者の参加も可）
料 金：別紙記載

3. 憇い活動について

- ① 回数・日数・実施した内容の詳細
 - ◎ 総実施日：128日
 - ◎ 総参加者数：19人
 - ◎ 子ども達がフリースペースで遊んでいた内容：工作（レジン・木や廃材を使った制作・人形作り・手芸・勾玉作り等）・オンラインゲーム（スイッチやタブレットPC）・外遊び（鬼ごっこやラジコン遊び等）
 - ◎ 鶴見緑地プール体験について
回数：3回 実施日：5/15・6/12・9/18
 - ◎ 講師によるワークショップ体験実施について
 - A 押し花アート
実施数：3回
内容：
 - ・6/17 押し花を使ったオリジナルカレンダー制作
 - ・10/23 押し花を使ったオリジナルボールペン制作
 - ・2/17 押し花を使ったティッシュケース制作
 - B バルーンアート
実施回数：2回
内容：
 - ・8/19 バルーンでキャラクターや動物制作
 - C 絵画教室
実施回数：1回
内容：4/22 キャンバスにアクリル絵の具でお絵描き

D 建築アート：

実施回数：2回

内容：

- ・7/3 ハンコを使ったオリジナルポストカード制作
- ・9/25 紙等でミニチュアお部屋制作

② 成果について

憩い活動は復学を目的としたものではなく、好きな事に没頭できる環境を提供し、子ども達が自信を回復しながら、一歩前に進む勇気を持つためのサポートを目的としている。

【子どもたちの成果と人数】

- ・長年学校に行ってなかつたが、憩いで好きな事を存分に楽しんだ結果、自らの意志で学校に通い、完全に復学した：1人
- ・学校に行く日数が増え復学寸前である：1人
- ・他の習い事やフリースクールや放課後ディなどにも通えるようになった：3人
- ・学校に行く日数が増えた：1人
- ・外に出て活動することが難しい状況にあったが、保護者同伴で憩いに参加できた：2人

【その他の成果】

- ・子どもたちに多くの体験を提供できた。
- ・憩いに通うことが出席扱いと認められた公立学校： 4校

③ 課題について

A 長期休み後に参加回数が減少する子どもがいる

ゲームにはまっている小学校6年生から中学生の男子4人グループのうち2人について。夏休み休暇後に不規則な生活が常態化し参加回数が減少した。

理由1、大きな刺激がなければ動き出せない気質をもっている。

理由2、外に出なくても、家の中にいたままでも友だちとオンラインゲームが楽しめる環境にある。

B ゲームに依存している子どもが多い

「ゲーム以外は興味がない」「ゲーム以外のことをしたくない」という子どもが多いので、そのような子どもたちが外に出るために時間を決めて憩いでゲームを許可している。

C 成果を出すほど、憩いの参加人数減少し収益も減る

随時参加していた子どもたちが、学校への復学や他の居場所に参加できるようになった等の理由から憩いに参加しなくなり、1日あたりの参加者が減少した。

好きな時に来て良いという特徴は利用者にとっての利点だが、規則正しく参加できる子どもは憩いを卒業し、月1回や年数回のみの参加者が増えるため、人数の不安定さを生み出す要因となっている。

これまででは、参加者数の増加で起こる特性ある子どもへの負荷を配慮して新規募集を控えていたが、今回の人数減少に対処するため10月より募集を再開した。

しかし、学校や他の居場所に合わない子どもたちの定着には、6か月から1、2年単位で取り組む必要があり、新規参加者の参加日数増加はまだ時間がかかるであろう。

D 人員不足とボランティアの定着率の低さ

長年の課題であるボランティア不足を解消するため、今年度の「子どもの未来応援事業」の助成を得て、有給パート職員を2度雇うも、2人とも2~3日で辞職した。募集要項に「子どもの心理について知識のある方」としたが、応募者は子ども達とうまく関わることができず辞職してしまった。

ボランティアについては、募集サイト「アクティボ」からの応募が時々あるものの、メールの返信がない、またはボランティアをお願いした日に来ないまま音信不通になる人が9割をしめ、やっと活動に参加してくれたとしても子ども達とうまく関われずにすぐに辞めてしまう人が後をたたない。

4. ドキドキつくり隊活動について

① 回数・日数・実施した内容の詳細

- ◎ 総実施日：57日
- ◎ 総参加者数：3人
- ◎ 訪問時に行った内容：オンラインゲーム（スイッチやタブレットPC）・外出（お買い物補助等）

② 成果について

- ・訪問時、部屋に籠って会えない事もあったが時々一緒に遊ぶようになった：1人
- ・昼夜逆転し訪問時に寝ていることも多かったが、訪問時間にはなんとか起きができるようになった：1人

③ 課題について

- ・参加を希望したいという問い合わせはあるものの、参加者数は増えなかった。子ども自身が「訪問して欲しい」と思ってもらうためのPRができていなかったと痛感している。

5. わくわく探検隊の活動について

① 回数・日数・実施した内容の詳細

◎ 総実施日：15 日

◎ 総参加者数：23 人

◎ 実施内容：

- ・4/6 福知山廃線敷（トンネル探検）
- ・5/12 芦屋川ロックガーデン（山登り）
- ・5/26 鶴見緑地公園（鬼ごっこ＆虫取り）
- ・9/8 箕面公園（川遊び＆昆虫館）
- ・9/16 久宝寺緑地（地域のご老人とクイズラリー）
- ・10/6 生駒山麓公園アスレチックフィールド（アスレチック）
- ・10/27 私市ロッククライミング体験
- ・11/10 上の太子みかん園（みかん狩り＆芋ほり）
- ・11/24 芦屋川ロックガーデン（山登り）
- ・12/6・12/15・3/15・キッザニア甲子園
- ・1/19 池田カップヌードルミュージアム（チキンラーメンづくり）
- ・2/9 箕面の滝（雪遊び＆スケッチ大会）
- ・3/2 鶴見緑地公園（公園遊び＆咲くやこの花館見学）
- ・3/23 私市星のブランコ（スケッチ＆山登り）

② 成果について

- ・不登校によって不足してしまう、運動の機会や多くの体験機会を提供することができた。
- ・不登校・貧困・その他様々な状況に置かれている子ども達が、共に楽しい経験を共有することで、仲間となり仲良くなることができた。
- ・登校しているものの学校になじめない状況にある子どもにとっての心の居場所となっている：1 人
- ・大阪市役所の子ども支援課と連携することで、貧困等過酷な状況に置かれている子ども達と繋がり、ハイキング体験と電車賃・昼食の支援も実施できた。
- ・ASD の傾向によって外出が苦手な子どもが複数いるが、事前にスケジュール表を渡したり支援者に対する信頼を獲得したりすることで、外出に対する怖さを乗り越えることが出来るようになってきた。

③ 課題について

- ・参加希望者がハイキング直前に増えることが有り、ボランティアの増員が難しい時がある。

- ・子ども食堂や市役所などに、環境的に体験が少ない子どもを招待すると伝えるも、対象となる家庭に周知してもらえることがほぼ無かった。

6. イベント活動について

- ① 回数・日数・実施した内容の詳細
 - ◎ 総実施日：7日
 - ◎ 総参加者数：29人
 - ◎ 実施内容
 - ・6/28 ゲーム大会（ハートクレア共催）
 - ・7/23・7/24の1泊2日 夏休みキャンプ（関西サイクルスポーツセンター）
 - ・11/8 ハロウィン（タリーズコーヒー天王寺動物園店）
 - ・11/30 ホテル体験親子イベント（W大阪ホテル主催）
 - ・12/25・12/26 クリスマス会（2回に分けて開催）
 - ・3/28 春休みイベント（バルーン＆アイシングクッキー体験）
- ② 成果について
 - ・中央区,天王寺区の社会福祉協議会・中央区生活コーディネーター・他団体（ハートクレア・ゆるん）・企業（W大阪ホテル・タリーズ天王寺店）等と多くの団体と連携できた。
 - ・クリスマス会では敏感で大人しいお子さんも参加できるように、「騒ぎたい会」と「静かに過ごす会」に分ける工夫を行ったことで、参加者全員が楽しめた。
 - ・キャンプでは、「引きこもりがちな子どもが初めて親元を離れてお泊りすることができた」「母親から離れることができた」「友だちと協力してバーベキューの火を起させた」「虫取り隊を結成してカブトムシを何匹もつかまえることができた」など、多くのこどもたちが自信と達成感を感じるイベントを開催することができた。
 - ・ホテルお仕事体験イベントは、子どものみならず保護者からも好評である。ホテルの外国語を話す従業員と会話に触発されて英語を習うようになった子どももいた。
- ③ 課題について
 - ・他団体との協力企画では、当団体の子どもたちの希望した方向性から外れてしまう内容もあったため、次回はより相互理解を深めた上で実行したい。